



かなちゃんのがんばりノート

〈愛知県〉 鈴木美香 49歳

「ちょっとこれ見て」と、小児病棟の廊下でかなちゃんのお母さんから手渡されたノート。表紙に「かなのがんばりノート」の文字。めくると見覚えのあるヘタクソなイラストが描かれたシールがいっぱい。「全部とってあるんだ」。頬が熱くなった。かなちゃんは10歳。白血病で初めての入院だった。明るくてよく笑うかなちゃんは注射が大嫌いで、点滴の刺し替えが決まるたびに笑顔がなくなった。

ある日、やつと入った点滴の針を固定する包帯を巻いている私に、かなちゃんが「包帯って白いだけ？ かわい包帯ってないの？」と聞いてきた。そのころは、まだ包帯もテープも白だけだった。包帯交換用のワゴンや、処置室の棚をいくら探してもかなちゃんが喜びそうな物はどこにもない。他の業務中もずっと考えた。そしてひらめいた。急いで幅広の白いテープを出し、「かなちゃんがんばれ」の文字とヒヨコのイラストを書いた。顔がニヤニヤしてきた。

ニヤニヤした顔のまま、かなちゃんの元へ行き、手首の包帯の上からペタリとシールを貼った。「わあ、かわいい」。かなちゃんの顔がパツと明るくなった。「刺し替えは嫌やけど、新しいシールがもらえるからがんばれるねん」かなちゃんの点滴は続き、シールを何枚も書いた。ノートはかなちゃんががんばった証しだ。ノートが涙でばやけて見えた。准看護師になりたてでミスが多く、続けていく自信がなかった私。もう辞めたいと思っていた私の心にはかなちゃんはピカピカの電気を灯してくれた。こんな私でも患者さんが笑顔になるお手伝いならできると教えてもらい、そして30年たつて今も看護師として働いている。かなちゃんは数年後に天へ旅立ってしまったが、かなちゃんのピカピカの笑顔はいつも私を照らしてくれる。今日もたくさんの笑顔に出会えますように。

